

RUNE

MAGIC

An ancient way to
initiation and of
harnessing psychic
powers taught by a
European
Rune Master



第4のルーン OSを実践する段階になりました。OSは、あなたに努力の結実をうけることを教えてくれます。あらたな制約をつくることなしに受容するための霊をあたえてくれます。ルーン OSの歌の詠唱によりこの種の自由の中における受容についての理解を得ることでしょう。

OSは、サイキック・パワーを増大させ、自由へと導くパワフルなマジカル・エネルギーを有している。それを必要としている人に自分の話を人に結得させる力を与える。また、高いレベルのアストラル界、メンタル界のエネルギー（アストラル界、メンタル界に属するエネルギー）を受けとる準備をすることになる。FAのルーンがエネルギーを送ることであるのにたいし、OSのルーンは、受けることのルーンである。さらにいうならば、FAは、出来事に火をつける最初のスパークのルーンであり、それに対し、OSはその結果をあらわす。

多くの儀式において、OSは、エネルギーは、受けとめるために用いられます。ヒーリング・エネルギーの伝達に際しては、重要な役割をもちます。一般により効果の高いとされているグループでのルーンの実践においては、各人がそれぞれ特定のルーンを表わします。あなたが進歩し、グループでのワークが速やかにおこなわれるほどに、あなたのプラクティスはより効果的に、吸収するエネルギーはよりパワフルになるでしょう。

ルーンの手的ハンド・ポジション

ヒンドゥー教、仏教、その他様々な宗教における多くの像のなかにある手もしくは、指の形に注目されたことがあると思います。アジアのダンサー、特にバリ島の人々のなかにも同様なものが見出されます。これらのものは、ほとんど例外なく私達の内部に何らかの変化をもたらします。しかし、私達のほとんどが、このようなハンド・ポジションが引き起こすものが何であるかについて無知であります。これらのものは、儀式のことを考えてください。サイキックなエネルギーを認識している人々は、ハンド・ポジションによってもたらされる、領域のレベル、リアリティのレベルの移行にきずいているかもしれません。ヨギは、特別な霊的な目的のためにこれらの技法を用いています。ヨギにおいては、これらの形のことをムドラーとよんでいます。

ルーンのハンド・ポジション（印契、ムドラー）は、主に創造の領域からエネルギーを吸引します。ボディ・ポジションと同様、ハンド・ポジションは、“形の波動”の引き金となります。ピラミッド・エネルギーもこのような形の波動であるように、多くのシンボルによって形の波動は引き起こされます。上級の人々は、吸引したエネルギーで特定の目的を“チャージ”することができます。

手でルーンのシンボルを形つくと、その手を通し体内にエネルギーが流れこみます。これらのムドラーのもつ効果のひとつに、特定のルーン・エネルギーの方へと身体の分子の極性を変化させるということがあげられます。（もちろん、ここでは、物理学者によって理解されているところの極性について述べているのではありません。エネルギー、極性、分子などの用語は、超物理学の概念のなかで用いているのです。）ルーンのハンド・ポジションの継続的な実践の結果として、

より精妙な体について、宇宙のより精妙な部分について知るようになり、それらを再構築することになるでしょう。また、一夜にしてルーン・ムドラーのすべての恩恵があなたのものになることもないし、遠東のワークショップで速効ルーンを伝授することもできないということは記憶しておいてください。ルーン・ムドラーの実践、とりわけグループでのプラクティスは、肉体とオーラの全般的なヒーリングと浄化、チャクラの覚醒に効果があります。何の目的のためにはどのルーンをもちいればよいかは序々に明らかになっていくでしょう。

ルーンのムドラーを実践するときには、声にだしてルーンを詠唱せず（もちろん、儀式やプラクティスにより例外はあります。）、息を吸う時にマントラを心のなかで唱えてください。それと同時にルーンのエネルギーの流れが、手を通じて体内に流れ込んでくるのを感じてください。

呼吸の調節

適切な呼吸のコントロールなしで、ルーンのプラクティスを考える事はできません。事実、どのルーン・プラクティスも次の3つの要素からなりたっています。

1. ボディ・ポジション、もしくは、ハンド・ポジション
2. 呼吸プラクティス（時として、マントラ詠唱、ルーンの歌の詠唱を含む）
3. 単数、もしくは、複数なものへの集中（ルーン・エネルギーの増幅、または、方向付けのために）

ヒーリングを実践するとき、既にこの3つの要素にのっとり、行われたことでしょう。

呼吸の重要性に気づくことが大切です。正しい呼吸をおこなっている人々は、ごくわずかです。その結果、体内の各細胞は、十分な酸素の供給を受けることができず、また、老廃物も十分排出することができずにいます。そのため、病気、心の動揺、疲労が生じるのです。

また呼吸は、私達にライフ・エネルギーを供給します。東洋では、このエネルギーのことはプラナと呼ばれています。西洋においては、オド・エネルギー、オルゴン・エネルギーなどとよばれています。オルゴンは、科学的な機器により測定が可能で、特別な器具を用いて発生させることができます。オルゴンに付随するより高いレベルのエネルギーであるオドは、指向性を意識的にもたせることができます。これらのエネルギーは、物質界、エーテル界、そしてより高次の界に効果的な成果をもたらすために増幅することができます。通常の意識せずに行なう呼吸では、ノーマルに機能するに必要なオド・エネルギーのみ身体に供給されます。意識的な呼吸法とは、かなりの差がでてくるわけです。

吸気のなかに思考、または、ルーンを投影することにより、その空気のオド・エネルギーを吸収します。このルーンを含んだオド・エネルギーが肺にそして血管中に運ばれた時、2重の役割を演ずることになります。第一に空気の物質的な部分とルーン、もしくは、思考を含んでいないライフフォース（オド・エネルギー）は、肉体を維持するためにつかわれ、次にルーンや思考を含んだオド・エネルギーが血液からアストラル体へ、アストラル体からメンタル体を通して不滅の魂に流れ込む。

これが魔術的観点から見た呼吸の秘密の結論です。多くの神学においては、ハタ・ヨガの体系のように導入的な目的で、正しいプロセスを知らずに呼吸法を用いています。ヨガのプラクティスによって示されているいくつかの極度に激しい呼吸法を行なった結果、深刻な肉体障害に苦しんでいる人々がいます。これらの事例のほとんどは、経験のない読者が、サイキックなパワーを手早く得るためにそれを約束している技法を用いた結果です。

ここまで読まれたならば、問題となるのは吸気量ではなく、ルーンを含んだオドの質が重要であることに気づかれたことと思います。それ故、肺に不必要な緊張を加え多くの空気を吸うことは、必要ないことであるし、勧められることはありません。結果、ゆっくり穏やかに呼吸することになります。

気持ち良く座れる椅子に腰をおろし、全身をリラックスさせ、鼻から息を吸い込んでください。息を吸いながら、オドの力はパワフルであり、ルーンURのエネルギーで満たされていると想像してください。ルーンURは、身体を健康にし、落ち着かせます。あなたの周囲にURの存在をイメージしてください。息を吸うときにはいつでもURのエネルギーを体内にひき入れ、息を吐く時には、体内のあらゆる箇所にURのエネルギーを分配してください。ヒーリングのエネルギーが身体のあらゆる箇所にいきわたっているのを感じてください。

ルーンのシンボリズム

ここでは、一般的な象徴について、そして、特にルーンの象徴についてお話しします。

象徴は、エネルギーをチャージすることにより真の象徴となり、物質界に影響をおよぼすアクティブな象徴となるのだと主張するおおくの研究者がおり、一方では、象徴は、それ自身ある種のエネルギーを放射しており、チャージは、必要ないという人々もいます。後者の好例としてはピラミッド・パワーがあげられます。また、ペンタグラム、ヘキサグラムなどの形もかれらの主張を裏付けています。多くの実験において事前にチャージされていないシンボルからのエネルギーの放射が発見されています。それに対し、前者のグループは、シンボルの効果を期待することにより、無意識のうちに実際は、チャージがなされていると主張しています。

象徴にかんしては、様々な見解が存在しています。第一のグループは、シンボルは、それ自身がエネルギーを有していると考えており、第二のグループは、チャージの必要性を主張しており、第三のグループは、シンボルの効果は、何千年にもわたる信仰の結果とみなしており、第四のグループは、シンボルを使用する人が信じることのみが、そのシンボルに力を与えているとしています。

これらのグループ間の論争は、延々と続いています。あるシンボル群について真実であることが、他のシンボル群にもあてはまる必要はありません。一方の理論が特定のシンボル群については非常によくあてはまる場合もあるでしょう。物理学においても似たようなことがあります。物理学同様にすべての理論を包括する理論が必要であるかもしれません。象徴の形而上学も、いずれは量子力学や他の現代科学の科学的洞察に到達するようになるでしょう。

私達は、しばしば真実を言語の段階に引き降ろそうとしたり、言語の段階に属するようにしようと試みます。しかし、そのような行為は、真理の真の構成を見つけることにはならず、言語固有の構成に無理にあてはめることになってしまいます。つまり、言語をベースにした「論理的真理」に係わりすぎるとすべての科学の基礎に貢献した「生の体験」を忘れてしまうことになりかねません。

もし形而上学で成功をおさめようとするれば、純粋な言語的考察とは違ったレベルでの操作が必要になります。人間の論理にてらして、正誤を考えることにあまり重きをおかず、私達にとり有益か否か、役に立つかどうかを重視すべきでしょう。

この観点からみれば、ルーン象徴がそれ自身バイブレーションを有しているのか、それとも、使用するためにはチャージを必要とするのかと言ったことはほとんど問題ではなくなります。私達にとっての問題は、実際にその効果をみることができるものはなにか、知覚できる、あるいは、認める事ができるルーン・エネルギーをいかにしたら用いることができるのかということです。ルーンをもちいてワークを行なえば、特定のバイブレーション、もしくは、エネルギーをひきおこすことができます。便宜上、ルーンのシンボル、ポジション、特定のサウンドにおいてみられる、「形の波動」について話します。重要なことは、ルーンは、実際に作動し、物質界との関連を見出す事ができ、ルーンにより影響を及ぼすことが可能で、ルーンと物質界との間の相互作用を支配する自然の法則を明確な形で表わすことができ、それにより数多くの目的のためにルーンを応用する技法をあみだすことが可能であるということです。

ルーンは、ひとまとまりの象徴であるだけではなく、象徴体系をもっています。この体系について語る前に、ここで使用している象徴（シンボル）という言葉の意味について考えてみましょう。

象徴にはいくつかの側面があります。

1. ある種の形、もしくは、輪郭を有している。この形は、空間における図形であるかもしれないし、サウンドやマントラのような音声的な形であるかもしれない。
2. シンボリックな一面をもっていること。つまり、その形、もしくは、輪郭からその象徴の意味を導きだせること。この象徴的な意味は、いかなるエネルギーも放射している必要はない。いいかえれば、意味それ自体がアクティブではない。
3. 喚起的な面をもっていること。この側面にかんしては、外形からは見出すことはできない。しかし、その象徴がその特別な喚起的な意味にアクセスするためのトリガーとして働くということを意味している。象徴の喚起的な意味は、その象徴に対する瞑想により体験される。シンボルの喚起的な次元というのは、特別な秘教的な知恵や知識を未采に知識をのこすために象徴のなかに封じ込めるためにつかわれた。
4. 象徴のエネルギー的側面は、シンボリックな意味と喚起的な意味の両方、もしくは、どちらかから導きだされる。ここでは、象徴は、そのエネルギーにアクセスするためのトリガーとして作動する。
5. 象徴体系の一部として存在していること。象徴体系というときに

は、秩序だって記置された象徴群を意味している。つまり、象徴の順序と相互の位置が重要性を持つということである。象徴体系は、それ自体が内包している象徴よりもより高いレベルの秩序のなかにある象徴でもある。その体系の内においては、その象徴体系の一部である象徴は、その位置により相互に関連している。象徴体系のなかでアルファベットのようなものは、直線型とよばれており、そのような場合は各象徴はナンバーをつけていくことができる。象徴に与えられたナンバーが体系のなかでのその象徴の位置を決定することになる。このようなナンバーは、その象徴の数霊術的な意味あいをあらわしているものではない。また、獣帯のように平面状に示される象徴体系もある。その場合の関係は、単純な直線型にくらべずと複雑になる。また、直線型象徴体系も、同時により高い秩序をもった象徴体系の一部である場合もある。

象徴体系は、そこに属する象徴の単純合計以上のものであります。言い換えれば、象徴を適当に記置しても各象徴の総和以上のものはほとんど生じないと言うことができます。

一般に象徴体系は、そのシンボルのかかわりのある領域の分類整理の手段であります。例えば、化学のシンボルは、周期的な体系に基づいています。化学反応や化学の分野においては有効なものです。しかし、化学の象徴体系は、ある特定の物質的なレベルにおいて有効であるのみであり、ありとあらゆることを説明できる、万物公式ではないということを認識しておかねばなりません。同様に、占星学的象徴体系、カバラ的体系、ルーンの象徴体系もすべて万物公式ではないということを知っておかねばなりません。しかし、象徴体系自体で表わす事ができるものを混乱している人々もいます。万物公式についての誤

った概念から、「すべてのものは、物理、化学の公式であらわすことができる。」とか「占星学は、すべてを表現できる。」「あらゆるものは、カバラのなかにある。」「数霊がすべてだ。」といった万物公式症候群がおおくの形而上学系のサークルのあいだに蔓延しています。これは、ナンセンスなものです。

秘教的、形而上学的、超物理学的なシンボリズムは、物理学、化学、生物学などの純粋に物質的な象徴体系とは明確に区分されます。一般に秘教的、形而上学的、超物理的な象徴体系は、物質次元を越えた界や思考の領域への段階的イニシエーションの体系を内包しているといえます。それに対し、純粋に物質的なレベルのシンボリズムは、精妙な物質の次元を無視しています。

18の神聖ファソオルク・ルーンは、超物理学の象徴体系のすべての特徴をもっています。ルーンは、超物理学的です。なぜならば、物理学や化学によって表わされ研究されている限定された時空の制約を超越しているからです。18の神聖ファソオルク・ルーンは、象徴体系であり、他のルーンのように象徴の単なるあつまりではありません。また、直線型の体系であり、各ルーン的位置（順序）が重要性をもっています。神聖ファソオルクは、より高いレベルの秩序の体系でもあります。すなわち、馱帯のように円形配置が可能であり、体系内において各ルーン的位置からそれぞれのルーンの意味をひきだすことができるわけです。その上、ルーン象徴体系の基礎である、3本の対角線をひいた六角形、との間の関係のみとめることができます。他の高いレベルの秩序をもった象徴体系は、ルーンより導きだすことができます。あなたは、こうした複雑な象徴体系を学んでいるのです。18の神聖ファソオルク・ルーンは、一群の象徴であり、各象徴が固有の

数をもち、象徴的かつ喚起的な面をもっているということです。各ルーンのマントラは、音をベースにしたもうひとつの象徴体系であるといえます。

ルーンとその象徴体系は、創造の領域の分類整理秩序化を意味しています。そして、この象徴体系により、創造の領域との相互作用と私達が生活している世界に創造の領域を関与させる有効な手段をえることができるのです。

28のファソルク・ルーンは、イニシェーションの小径を表わしています。そのことは、オーディンのルーンの歌のなかに美しく示されています、もし、学徒がこの歌の深い象徴的な意味を理解することができるほどに自己を高めたとき明らかになるでしょう。このイニシェーションの小径に関しては、マジカル・ポエムのなかでも同様にしめされています。より詳細にのべるならば、オーディンの歌は、いかにしてルーンを体験するか、いかにしてルーンのイニシェーションを受けることができるか、を述べており、それに対しマジカル・ポエムからは、ルーンの超越的なエネルギーにアクセスするためのトリガーの体系を得ることができるというわけです。オーディンの歌の深い意味を体得することは、創造のルーン領域にアクセスするための重要なステップです。一旦ルーンの歌とマジカル・ポエムを体得できたならば、どのルーンの体系がすぐれているか迷うことはないでしょう。

ルーンの象徴体系は、層状の知識であります。最初に一つずつルーンに精通していき、ルーン領域を体験します。ルーンマスターの第一段階イニシェーションで、すべてのルーンが出揃い、ルーンの象徴体系自体と交わります。この第一段階のイニシェーションの後、再び個

々のルーンにもどり、次のイニシエーションに向け体験を深めていきます。

今回のエクササイズ

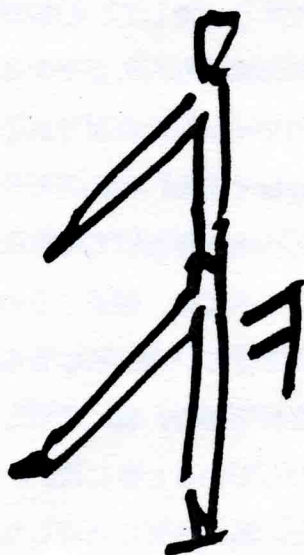
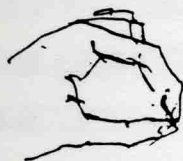
1. ルーン OSの歌を儀式書に書き写す。
2. ルーン OSの歌を1日1回同じ時間に唱える。
3. FA、UR、THORN、OSのハンド・ポジションの実践。これらのハンド・ポジションを呼吸と組合せておこなう。つまり、吸気とともに心の中でマントラを唱える。そして、ルーン・エネルギーの流れを感じ、内面でルーンを体験する。

OSのボディ・ポジションと ハンド・ポジション

ボディ・ポジション：真っすぐに立ち、左足を正面にあげ、それに平行して左腕をのばす。

バリエーション：右足を横に上げ、それに平行して右腕をあげる。

ハンド・ポジション：左手の親指と人差し指で円をつくる。



ルーン OS の歌

OS - 今日、私は顕現化の力を強化する。

OS - 今日、私には、万物の創造主からの贈り物をうける準備が
ている。

OS - 私が知る第4の歌、もしも敵が
私の柔軟な関節を縛り上げたならば、
私は、呪文をととなえ、
足枷、手枷は、壊れるだろう。

OS - FAは、私にカルマを変えようとする意志を与える。

URは、私にカルマの原玉を認識する力を与える。

THRONは、カルマの束縛に対し行動をおこすための技術
をあたえる。そして、OSがカルマの束縛を打ち砕く。私は、物
質界の束縛からの自由を体験することができる。

OS - 私のマインドは自由である。私のボディは自由である。私の魂
は自由である。私のスピリットは自由である。OSは、私を雲
の上へと引き上げてくれる。

OS - 今こそ私には、健康、心の平安、繁栄の物質的恩恵をうける準
備ができている。私は自らを自由にする。私は物質的な束縛か
ら自由である。私は理解している、私が物質的な幻想から自由
になっているときには、いつでも、物質は私のしもべであるこ
とを。私は物質に執着しないため、物質は私に執着する。私の
ルーン詠唱の成果が顕現する。ルーンをもちいた私のワークは
すべての次元に実りをもたらす。ルーンを用いた私のプラクテ
イスは、私のパーソナリティの一部となっている。私は今、O
Sを用いて、時空を越えた偉大なるルーンマスターの同胞の回

廊を通し流れ出る力を受けとめる。

OS-私は自分の魔力が増大するのを体験している。日々私は新たな強さを体験する。私は自分の物質界への執着がなくなるのを感じている。私は狭い視野をもっていただけ、それが私を物質界に縛りつけていたことを認識している。今私は世界を自由な眼で見ることができる。私は、物質界への執着と束縛を越えた人間の眼で世界を見ることができる。今私はルーンマスターの魔術的な眼で見ることができる。この魔術的視力は日々その力を高めていく。

OS-私は、真に自由を欲するすべての人に対しOSを投射することができる。私は自由を熱望する人に対しOSを投射することができる。いったん彼らがそれを得てしまえば、2度と再び新たな執着をもとめることはない。OSにより、「私は自由である」と言うための力と自由になるための力が与えられる。OSは魂を縛りつけているものを打ち砕く。OSは、私に時空の制限をこえたところで働く自己のサイキック・パワーを気づかせてくれる。この力の成長と増大を妨げるものはなにもない。私はこの力をなにもものにも執着しない自由な態度で責任をもって使用する。

OS-OSにより、アストラル次元、メンタル次元の高いレベルの波動を受けとめ、また、受け入れることができる。私はこれらの波動を知覚することを学習している。そして、ルーン領域からの操作によりその波動を使用すること、つくりかえることができる。

OS-英知をうけいれ、摂取する口をあらわすルーン。自己の内部にある宇宙受容器。受容のルーン。顕現化のルーン。その力は、私があるゆる不必要な愛着から自由になるのを助けてくれる。

その力は、すべてのあしき力から自由になるのを助けてくれる
OS—それにより私は人に納得、確信させる話しをする力を得ることが
できる。私の語る言葉はますます魅力的なものになる。私は
真理を受け入れているので、世界に向かい真理を語ることができ
るのだ。私のルーン詠唱の力は、魔術的に成長する。私のル
ーン詠唱の力は物質世界に顕現する。幸福、心の平安、繁栄、
愛を私は与え、そして、受け取ることができる。私が真にそれ
を欲し、意志を持ち、原因を認め、創造の領域から投射した変
化は、OSにより顕現する。OSは、行動の成果をもたらす。

OS—受容のルーン。授与のルーン。